⑳総合系１
（精神科神経科）

１．研修目標

様々なレベルの不健康に曝されている人々の苦悩を、全人的に診るという医師としての基本的な姿勢、すなわち、bio-psycho-socio-ethical model の観点にたって、肉体的だけでなく心理的側面から、さらには、環境的分野に対しても、把握し、理解し、積極的に援助できる姿勢と技能を修得する。精神科必修コースにおいて学んだことを基礎にして、さらに深める。

２．研修指導体制

(1)　病棟では、指導医（主治医）の下で、病棟の２つのグループの１つに属し、副主治医（あるいは主治医）として２～３人の患者を受け持ち、実際の診療にあたる。病棟回診、新患紹介、病棟カンファランスでの検討会で症例の説明・呈示を行い、理解を深める。

(2)　外来では、予診をとり、本診の面接方法、診断の導き方、治療について診察医（指導医）とディスカッションを行い、学習する。外来カンファランスで症例の呈示を行う。

(3)　学生実習にあたっては、主治医グループの患者を受け持った学生の指導を担当する。

３．研修指導責任者　小澤　寛樹

４．研修内容

(1)　診療における基本的事項

①外来新患予診（精神症状と精神医学用語の基礎、面接の基本、カルテ記載など）
②入院治療の基本（面接、記録、検査、回診時のプレゼンテーションなど）
③精神保健福祉法の重要事項の理解
④精神科診療に必要な神経学的・身体的診察法
⑤患者・家族への応接、電話対応の具体的演習、患者・家族-医師関係の理解
⑥リエゾン精神医学
⑦児童・思春期患者の診察
⑧介護保険の理解
⑨精神保健指定医の役割

(2)　症状評価・診断

①精神症状評価法の演習（PANSS、HRS-D/A、Beck-D/M、Young など）
②ICD-10、DSM-Ⅳ-TR　診断基準の理解

(3)　検査法

①心理検査の演習（知的機能の評価、質問紙法による人格検査、投影法による人格検査、高次脳機能の評価、発達障害の評価など）
②脳波検査法と判定の実際
③脳画像診断の基礎（頭部 MRI、SPECT など）

(4)　治療

①精神療法の基礎
②代表的向精神薬の具体的使用法、注意すべき副作用
③精神科救急処置（不安発作、抑うつ、自殺企図、けいれん発作、幻覚妄想状態、せん妄など）
④精神科リハビリテーションの理解（精神科作業療法、レクリェーション療法、生活技能訓練（SST）など）
⑤精神障害者の家族教室について
⑥自助グループ、家族会について
⑦コンセンサスガイドライン、アルゴリズム概説
⑧認知症患者のマネージメントについて
⑨長崎県の精神科治療施設・精神保健・福祉資源・社会復帰適応訓練事業の理解

５．研修到達目標

５－１　行動目標

(1)　患者－医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を学ぶ。
(2)　精神症状のとらえ方の基本を身につける。
(3)　精神疾患に関する基本的知識を身につける。
(4)　精神症状に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。
(5)　簡単な精神療法の技法を学ぶ。
(6)　人間関係のとり方を学ぶ。
(7)　精神科診断分類法を説明できる。
(8)　向精神薬について基本的知識を持ち、自ら使用してみる。
(9)　精神科医療の法と倫理に関する必須事項（精神保健福祉法、インフォームドコンセント）を説明できる。
(10)　ＱＯＬを考慮に入れた管理計画をたてられる。
(11)　コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。
(12)　社会復帰や地域支援体制を理解する。
(13)　学外の研究会、学会で症例を報告する。

５－２　経験目標

(1)　精神症状・状態：抑うつ、不安、焦燥、心気、不眠、幻覚、妄想、自殺念慮、健忘、意識障害（せん妄)、失見当識
(2)　精神・神経系疾患：統合失調症、感情障害、てんかん、症状精神病、器質性精神障害、認知症、薬物依存、身体表現性障害、ストレス関連障害、不安障害、パーソナリティ障害、摂食障害、睡眠障害、児童思春期の精神障害、発達障害